

記者会見質疑応答

日時 令和8年7月30日（木）午前10時から

場所 第2応接室

出席者 ○市 側：市長、木村副市長、町田副市長、総合政策部長、未来戦略担当部長
未来創造戦略室長

○記者側：11社14名参加

発表内容 ・美沢地区土地利用方針の見直しについて
・令和7年度各会計決算概要について

<案件について>

○苫小牧民報社

美沢地区土地利用の廃止の関係ですけれども、当初は企業進出が狙いというところもあったと思いますが、今回の廃止についての率直な受け止めをお伺いします。

あと専門家とのやり取りがあったということですが、専門家はどんな話をしていたのかをお願いします。

■市長

本件については審議会へ方針（案）を我々の方で示させていただいて、一度は審議会でもその方針を認めていただき承認をいただきましたけれども、その後いろいろと意見があった中で、内部で協議を進めてまいりました。

また、今苫小牧民報社からもありましたとおり、専門家とのやり取りがあった中で、今回このような方針の進め方を決めておりますので、まずはそのようにご理解いただきたいと思います。

詳細については担当部長の方から説明させます。

■未来戦略担当部長

専門家からの意見ですが、開発に伴う工事で例えば場所によっては埋め立てをすることが想定されるわけですが、そのようなときに水源が失われたり、周辺が炭素化することに繋がるのが場所によっては起こり得るのではないかなという趣旨のご意見が多かったと思います。

○北海道新聞社

美沢地区の土地利用方針について事務的な点をまずお伺いいたします。先ほど地域の皆様や関係団体、環境分野の専門家と意見交換を重ねてきたとおっしゃられましたけれども、

これは4月末の見直し表明以降具体的にどのような団体と何回ぐらい意見交換を重ねてきたか教えてください。

■未来戦略担当部長

日本野鳥の会、町内会長、商工会議所の委員、室蘭工業大学の先生、市議会議員、農業委員会の方とで回数は10件ぐらいです。

○北海道新聞社

今後の手続きですが、市議会で意見を伺いながら最終的には都市計画審議会に撤回の議案を上げて承認を得るというような手続きになるのでしょうか。

■未来戦略担当部長

はい、そのとおりです。

○北海道新聞社

都市計画審議会は今のところ、スケジューリングとしましてはいつごろを予定してますでしょうか。

■未来戦略担当部長

9月中旬です。

○北海道新聞社

撤回ということは、一度撤回して再考するという考え方なのか、それとも当面は美々川沿いには基本的には建設などは考えていないというスタンスなのか、いかがでしょうか。

■未来戦略担当部長

元々産業と環境の共生ということを狙いで、半導体産業に資するということで方針を掲げてまいりました。

その後、様々な専門の方の声もありまして、懸念する声がたくさん寄せられたということもありまして、私自身としても改めていろいろな方の声を聞いてきたところでございます。

やはり当初からも開発の方針そのものですが、具体的な開発計画を持って、それが環境に影響があるかないかということを見ていこうという考えでございましたが、そのもの自体が懸念されるという声が大きかったこともありました。

その上で今回は元々掲げたことを一度撤回する考えに至ったわけでございます。

今後においては具体的な計画が今はない状況でございます。将来にわたって今何か具体的な計画がない中では開発できないのではないかと今段階では考えております。

ので、この先のことについては今段階では当面予定はないです。

まさにそういった具体的な計画があるかないかということも今後一つの検討材料になるのではないかと考えております。

○北海道新聞社

結果的には今回懸念の声を考慮して撤回という形に至ったわけですが、環境団体や地域には 1 月に突然計画が出されたというような声もあったわけですが、市の事業の進め方として、もっとこうすべきだったというような反省点などはございますか。

■市長

審議会にまず方針の考えを出して、その後担当含めて多数のご意見をいただいておりますので、それを踏まえるとそういった意見を事前にもう少しこちらで把握してから出すということも一つの手法ではあったと思いますが、我々としては審議会に測った時点で考えを示してはありましたが、市民の意見あるいは関係団体の皆さんの意見を全く取り入れないというわけではありませんでしたので、様々な意見をいただけたということについては、それを踏まえて私たちも今回の判断に至っておりますので、そういう意味では民意や団体の意見を受け止めたうえでのものと理解しております。

○建設新聞社

今回撤回という形になって、現時点で具体的に企業さんの方からこの場所でこういうような計画もないという話だったと思いますが、そもそも 1 月に利用方針が示された段階では、何かしらのそういったこの場所を使ってこうやりたいという具体的な話が来ていたから 1 月にこういったものを出されたという認識でお間違いないでしょうか。

■未来戦略担当部長

具体性なのですが、やはり環境が影響することに対して判断を資するような具体的な提案ではないですが、声や要望としてあったということを踏まえての方針でしたが、やはりそれだけでは具体性が欠けてしまうので、環境にどう影響するのかまでの提案までにはいたっていなかったということです。

○建設新聞社

今の話ですと正式にこういうものを作るというような話まではいつてなかったけれども、使えたらどうかというような提案はあったけれども、現時点ではその提案すらもなくなったというような形ですか。

■未来戦略担当部長

そうですね。こういういろいろな案件について報道された後にそういった声が今のところはないということです。

○紙の街の小さな新聞社ひらく

美々川に関してお隣の千歳市の方では、上流部で自然共生サイトとしての登録を目指すということを先日発表されています。

苫小牧でも今回の方針を受けて、エリアについて今の時点で保全の網掛けというのがなされていない状況ですので、今回この方針を廃止される意向をお持ちだということですので、懸念の声を受けた保全の網掛けを今後苫小牧市として、していく考えがないのか伺いたします。

■市長

担当部長からお応えします。

■未来戦略担当部長

現時点の話として、今までの方針を撤回させていただいていることでございまして、先ほども少し触れましたが、今具体的な開発計画もない中、今何か開発できるようにするという事にはならないということでございます。

今ご質問にあった保全する方の行政再登録みたいなところというのはまだそこまでの話ではなく、現時点では今まで掲げた方針に対して一度撤回するというところでございまして、そこまではまだ具体の検討もしておりません。

○紙の街の小さな新聞社ひらく

今までの議会議論の中でも他のエリアを検討すべきだというようなお話も出ていたと思いますが、今回のエリアを諦める替わりにどこか代替地を検討するお考えがないのでしょうか。

■未来戦略担当部長

これもいわゆる民間企業さんがどういったことを考えられるのかということに尽きるのかなと思いますが、現時点ではそういった考えはございません。

○HBC

様々な反対、懸念の声を受けて、この判断をしたということをおっしゃられていると思いますが、実際専門家などから環境を懸念する声が上がってきて、それを受けて市としては、環境への影響というものが実際にあるんだという認識を今お持ちのうえで今回の決定をし

ていると受け取ってよろしいでしょうか。

■市長

誤解がないようにお伝えしたいのは、今回様々な意見がある中でやはり反対の意見が多かったというのは事実でございますが、反対があったから方針案を廃止するという判断をしたわけではなくて、先ほど担当部長からもありましたように様々な意見が出た後に専門家の意見を聞く機会をいただき、その土地利用が実際にどれぐらいできるのか内部検討等をしたうえで、自然のいわゆる環境の保全と産業振興のバランスをとるという中で、今回は方針を廃止するというような判断に至ったということでございます。

反対があれば何でも撤回するとか、考えを変えるということではなくて、まずはその内容をしっかりと我々として受け止めた上で自然保護を環境保全と産業振興を進めるかという総合的な判断をしていかなければいけないと思っておりますので、今回の廃止の方針決定もそのような考えに基づいているとご理解いただければと思います。

○HBC

今回美沢地区の方針は廃止方向で未来戦略担当部長からも替わりの場所は想定していないというご回答でしたが、全体の今後の市政方針、進め方としては開発と自然との調和ですとか今後の企業誘致のあり方とかそのあたりの考え方は今回の経緯を受けて、今後何か変更があるのか、そのあたりの全体的な今後の進め方をお聞かせください。

■市長

基本的には我々の方針が変わることはなくて、この北海道で一番大きな港あるいは空港を持っている街としてあるいは苫東を始め工業用地もそういった企業立地に適した土地をたくさん保有している街としてこれからもっと様々な企業誘致、産業誘致に取り組んでいきたいと思っております。

ただその時には必ず環境保全との両立ということを考えなければいけませんので、企業進出といえば苫東への進出が想定されたりしますけれども、例えばそれ以外の土地で考えなければいけないような具体的な事案が出てきたときには、今回のような検討を具体的な事案としていかなければいけないものと思っておりますけれども、基本的には経済発展に向けて積極的に伸びる産業誘致には取り組んでいきたいと思っております。

○朝日新聞社

必ずしも反対の声があったから見直すのではないとおっしゃられておりましたが、産業と自然とのバランスということも重視なされたということなのですが、そもそも1月の都市計画審議会の委員さんの中には、自然保護だとか生物多様性を専門とする委員さんはいなかったと聞いています。

市の方も当時、1月の時点ではニーズがあるかも知れないという不確かな根拠をもって審議会に諮ったのだと思いますが、その時点で内部で産業振興にこの土地が資するものであるという判断があったから、緩和に向けての議題を上げたと思うのですが、さらに審議会の中でも、その産業振興を専門とするような委員さんがいらっしゃって、その方たちが見直しを是とする結論を出したということは、これは審議会も市も見通しが甘かったということ、市長自らおっしゃったと思うのですがいかがでしょうか。

■市長

先ほども申し上げましたが、審議会の方針案の出し方で見通しが甘かったかと言われるば、結果今回方針の廃止を方向性として決めておりますので、そういう指摘は私は受けとめたいと思いますけれども、ただ方針を審議会に出して、その後いろいろな意見が出たことを踏まえてこちらも当該土地で利用できるところがどれぐらいあるのかとか、あるいは改めて美々川を残しながら、どれぐらいの土地の開発をした場合に影響が出るのか、そういった検討も改めて行いましたので、市民の皆さんの声を受けて我々としても改めて検討協議を行いましたので、それで結果無理だということであれば、それは民意を受けて方針決定ということで問題はないかなと思います。

○朝日新聞社

未来戦略担当部長のご同席の上で植苗地区での住民説明会に私もお邪魔させていただいたのですが、例えば市として、審議会としてアドバランを上げてみたら意外に反対の声が大きかったということ、市、審議会も含めて見誤ったというふうに私は思っているのですが、行政のトップとして反対の声が大きいため行政の決めた方針を簡単に撤回するのはどうかということはもちろんわかりますけれども、ここは行政とか首長のメンツではなくて、その見誤ったという反省は市長の口から一言あってもいいのではと個人的には思うのですがいかがでしょうか。

■市長

見誤ったというよりも提出当時は想定していなかった件数の反対の声も出てきたということであって、私はそういったことを予見できなかったと言え予見できなかったです。

その点については見誤ったとは言えるかもしれませんが、一方で賛成の意見があるのは事実ですし、審議会でも一旦は案を審議会の委員の皆さんが了承したということもありましたので、その後様々な意見が出てきた中で、今回の判断に至っておりますが、その当時想定していなかったものが出てくれば、それを柔軟にこちらも取り入れて再協議して判断するということは何も問題はないことかと思っております。

○朝日新聞社

決算の関係ですが、口述資料の4ページ中段ぐらいに公設地方卸売市場事業会計の単年度資金収支953万9000円の部分ですが、決算資料の表はプラスになっているが、口述資料はマイナスになっているのですが、どちらか間違えているのですか。

■財政部長

市場会計ですが6年度がマイナスで、7年度は953万9000円の黒字ということになっています。

○朝日新聞社

この公設の会計以外は全部マイナスだという市長からの説明の話がありましたので、口述資料が間違っているのですか。

■財政部長

はい。資金収支マイナスになっているのは、水道と下水道事業会計、病院会計がそれぞれマイナスになっています。市場はプラス953万9000円になっています。決算資料が正解ということになります。

○朝日新聞社

決算資料が正しくて、口述資料のマイナスがプラスになるということですか。

■財政部長

はい。

■市長

今の部分は私が先ほど申し上げたものが間違っていましたので訂正してお詫び申し上げます。

○北海道新聞社

美沢地区の関係について二つ教えてください。元々は確か1月13日の都市計画審議会でこの方針が出たわけですが、これはどのぐらい前から市役所内で検討されていたのでしょうか。

■未来創造戦略室長

元々の方針が先だっていつからかというご質問でしょうか。

○北海道新聞社

都市計画審議会が出る前からのことです。

■未来創造戦略室長

おおよそ数ヶ月前から準備、検討はしていました。

元々市議会等でもラピダスの進出以降、新たな産業展開を期待すべきという議論も過去の経過でありましたので、その中でどういう場所でどういうものが立地するのが望ましいかという検討は内部では一定程度前から進めてきました。

○北海道新聞社

主に検討を進めてきたのは未来創造戦略室や総合政策部でしょうか。

■未来創造戦略室長

機構改革前でしたので、まちづくり推進課で検討しています。

○北海道新聞社

二つ目の質問ですが、都市計画審議会で示されたわけですが、例えば、美沢地区美々川沿いですと環境生活とか環境の部署が関わると思うのですが、そちらの部署にはいつ頃こういう方針を伝えたのでしょうか。

というのは環境団体さんとかのお話聞いていると、結構直前だった感じの話が少し聞かれたのでそこだけ確認したかったのですが。

■未来創造戦略室長

1月の方針を作った前のいつかということでの質問ですか。

○北海道新聞社

都市計画審議会に上げる前のいつ頃にご共有されたかということです。

■未来創造戦略室長

手元に資料がないので、時期を確定しきれませんが審議会に諮るどの程度前というのは記憶が曖昧なのですが、一定程度前ではあるのですが、その前度合いが直前だったかというのは、受け手の感覚にもよるのかなと思うのですけれども。

○紙の街の小さな新聞社ひらく

今の件に関連するのですが、今回の廃止する方向性というのは関係団体にいつお伝えになっているのか、これから伝えるということなのか。

また、審議会の委員さんにはお伝えになっているでしょうか。

■未来戦略担当部長

先ほどの質問でもありましたが、こういう方向で考えていますというようなお話はさせていただきます。

それは審議会の委員の方もそうですし、10 名程度になりますけれどもさせていただきます。

○紙の街の小さな新聞社ひらく

今日会見で発表されているので、例えば昨日とか一昨日とかそういう中での説明をされているということでしょうか。

■未来戦略担当部長

そうですね。7 月下旬からそういうご説明をさせていただきます。

○苫小牧民報社

今回ゾーニング美沢地区のエリアはかなり広い範囲で対象にしていたと思いますが、今回の廃止は全体の考え方なのか、それとも部分的の検討も一応していたのでしょうか。

部分的にあのゾーンを少し狭くしてやる案もあったのかというのを聞いたかったのと、なぜそれを聞きたいかといいますと、要するにこの全体のエリアに手をつけるのが難しいと判断しているのか、今後の開発行為にも関わるのかなと思いましたので今の時点での判断をお聞かせください。

■未来戦略担当部長

今回の方針自体はゾーンといいますか、文言として流域のところのエリアを指して開発を可能にするような方針でしたが、まずはそれを一旦白紙にすることになっていますので、一部を使えるようにするとかそういうことではない見直しになっています。

○苫小牧民報社

今後その部分をもう少し縮小したエリアで、新しい土地利用方針を出すということもあり得るということになるのですか。

■未来戦略担当部長

先ほどもご質問にあったかと思いますが、そもそも具体的な開発計画がない中でそれを検討することも今のところにはできないと思っていますし、今後といったときにはそれは具体的なものが出てきたときにどうするのかというのはもちろん検討するということはある

のかもしれませんが、現段階においてはそこも全く想定していません。

○苫小牧民報社

ファイターズ2軍誘致が駄目になったときの会見のときに、駅前再開発の質問をさせていただいたのですが、その後のスケジュールは大体詳細とか決まったのでしょうか。

■市長

まだ詳細は決まっておりません。